

結果の概要

－ 利用上の主な用語 －

- 行動者数……過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数
- 行動者率……10歳以上人口に占める行動者数の割合（%）
- 平均行動日数……行動者について平均した過去1年間の行動日数

－ 利用上の注意 －

- 1 ポイント差、構成比等の比率は、表章数値から算出している。
- 2 本文中の各活動の種類名については、一部省略をしている。

1 学習・自己啓発・訓練

(1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は4017万人、行動者率は35.2%で5年前と同じ

「学習・自己啓発・訓練」について、過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日。以下同じ。）に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）の数（行動者数。以下同じ。）は4017万人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ。）は35.2%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が1904万7千人、女性が2112万3千人となっており、行動者率は男性が34.3%、女性が36.1%で、女性が男性より1.8ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年と比べると、変動していない。これを男女別にみると、男性が0.1ポイント低下、女性が0.1ポイント上昇している。

年齢階級別にみると、10歳代、50歳以上で上昇しており、10～14歳、70～74歳で特に上昇している。20～49歳では、低下している。（図1-1）

男女別にみると、70～74歳、75歳以上を除く全ての年齢階級で女性の方が高くなっている。（図1-2）

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

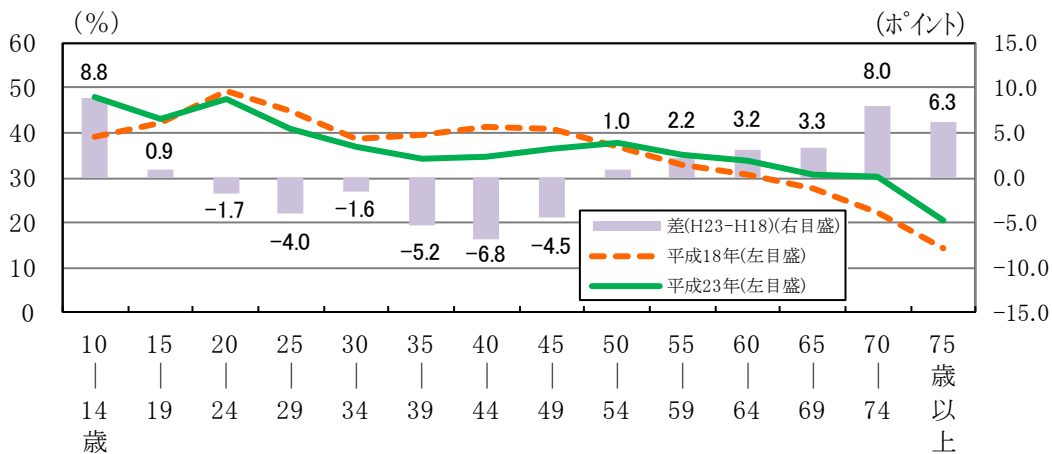
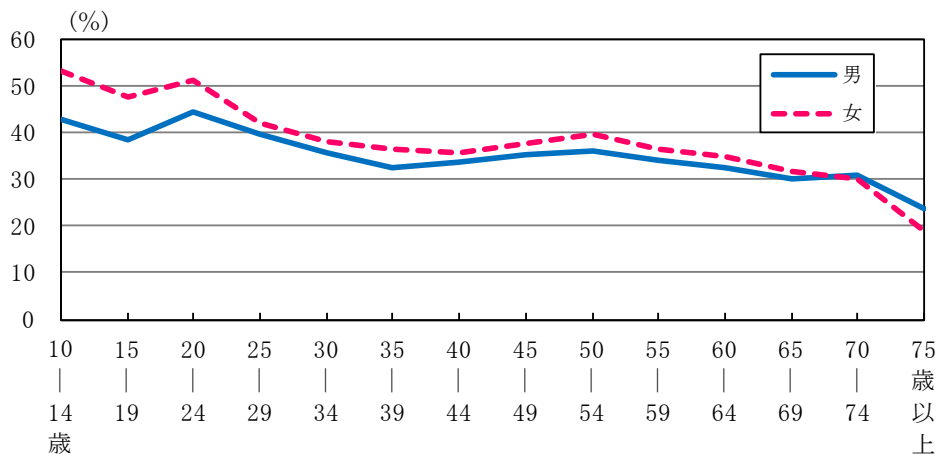


図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の男女、年齢階級別行動者率



注) 「学習・自己啓発・訓練」は、社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 行動者率は「英語」、「パソコンなどの情報処理」などで僅かに上昇

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を種類別にみると、「パソコンなどの情報処理」が12.1%と最も高く、次いで「芸術・文化」が10.0%、「英語」が9.6%などとなっている。これを平成18年と比べると、「商業実務・ビジネス関係」が1.6ポイント低下、「芸術・文化」が1.2ポイント低下、「英語」が0.5ポイント上昇、「パソコンなどの情報処理」が0.4ポイント上昇などとなっている。(図1-3)

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が14.8%と最も高く、次いで「英語」が10.1%、「商業実務・ビジネス関係」が8.2%、「人文・社会・自然科学」が8.1%などとなっている。女性は「家政・家事」が12.6%と最も高く、次いで「芸術・文化」が12.3%、「パソコンなどの情報処理」が9.6%、「英語」が9.1%などとなっている。(図1-4)

図1-3 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率(平成18年, 23年)

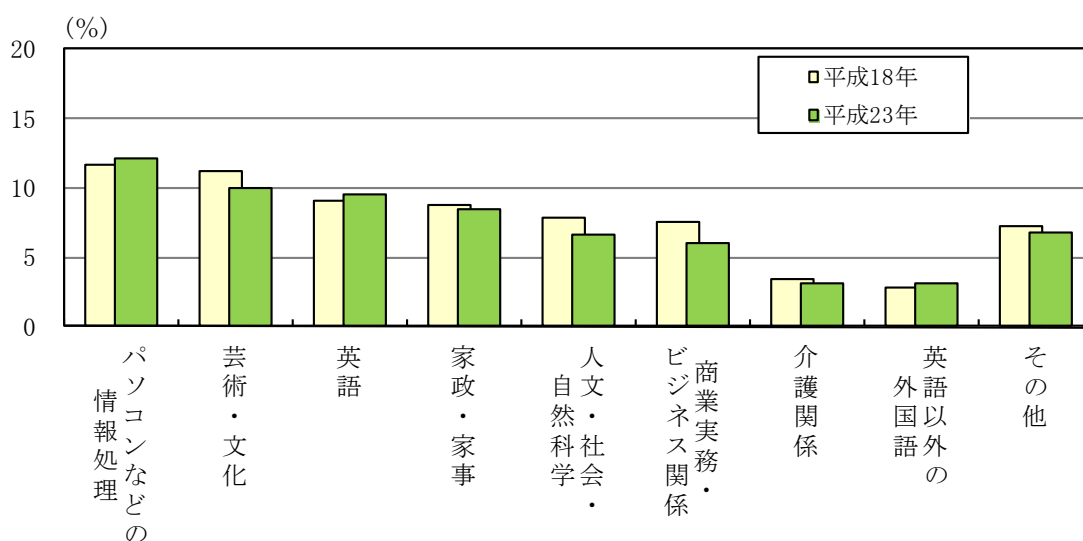
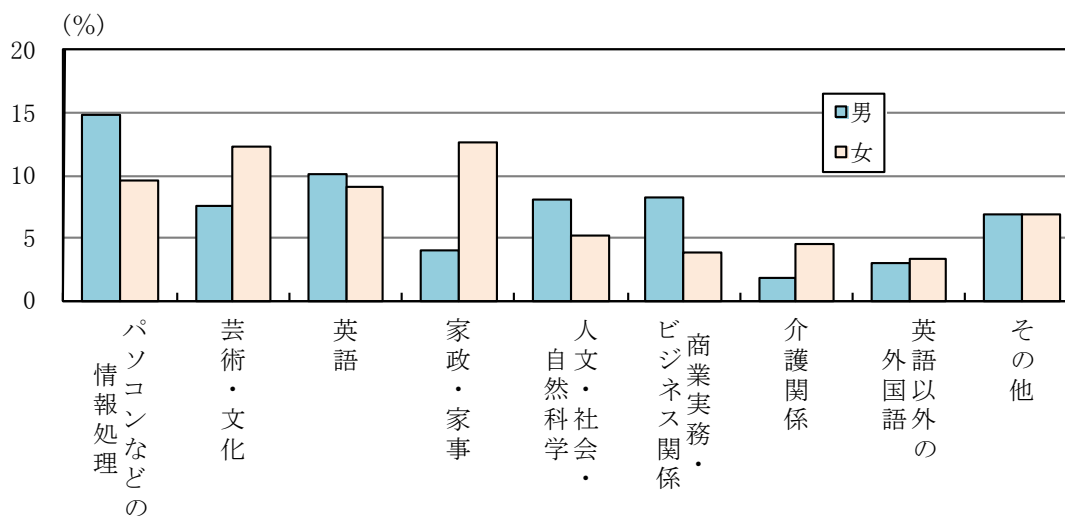


図1-4 「学習・自己啓発・訓練」の種類, 男女別行動者率

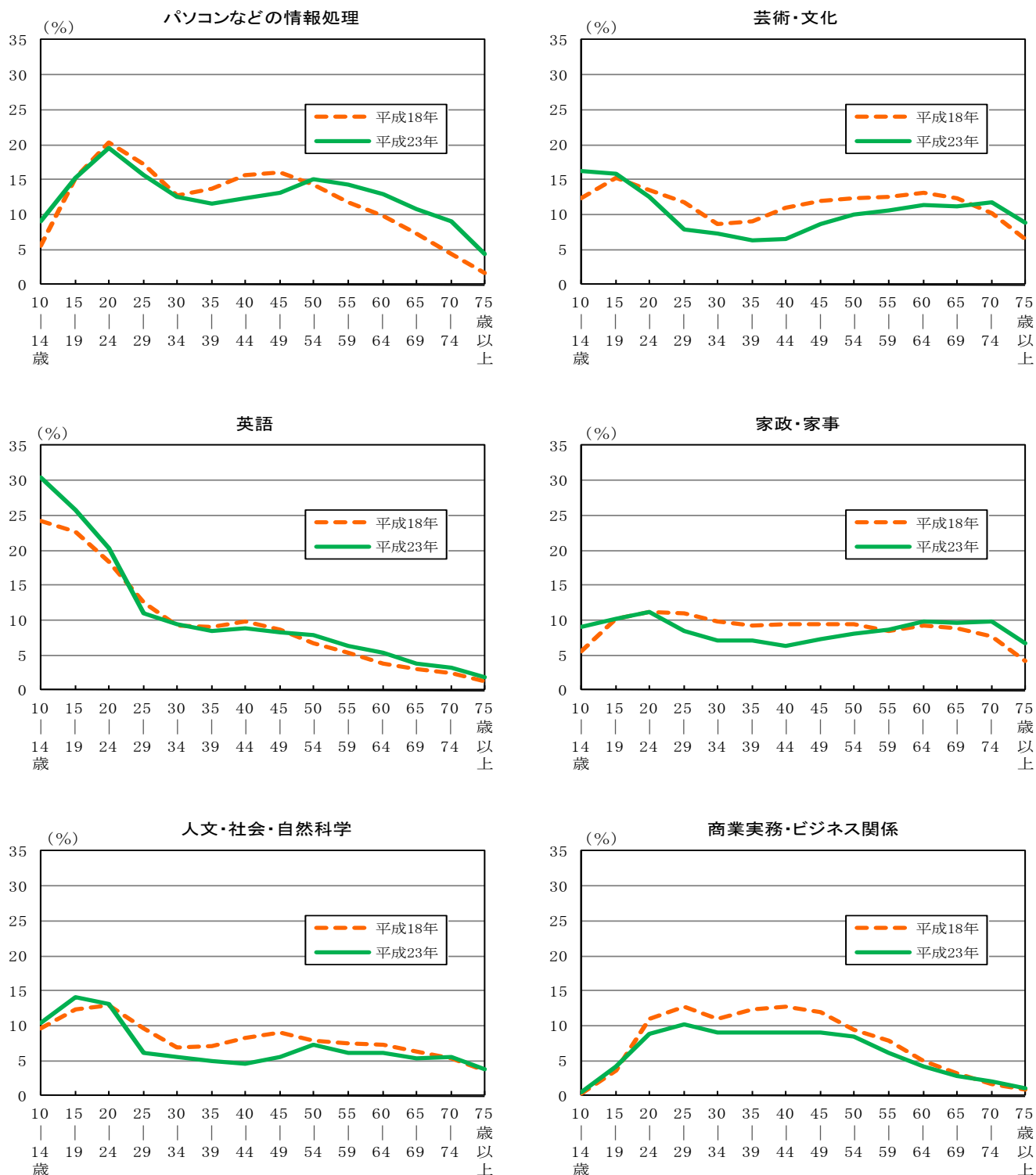


(3) 「英語」は10～14歳の行動者率が特に上昇

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「英語」は25歳未満で上昇しており、10～14歳が特に上昇している。50歳以上では、「英語」、「パソコンなどの情報処理」及び「家政・家事」はおおむね上昇している。

また、25～49歳では、全ての種類でおおむね低下している。（図1-5）

図1-5 「学習・自己啓発・訓練」の主な種類、年齢階級別行動者率（平成18年、23年）



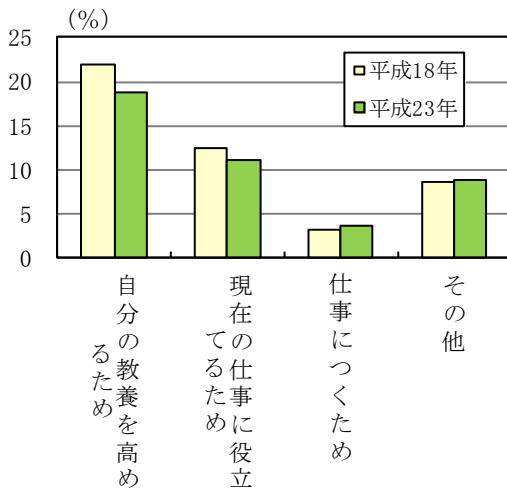
(4) 「学習・自己啓発・訓練」の目的は男女共に「自分の教養を高めるため」が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を目的別に平成18年と比べると、「自分の教養を高めるため」、「現在の仕事に役立てるため」は低下し、「仕事につくため」は上昇している。(図1-6)

男女別にみると、男女共に「自分の教養を高めるため」が最も高くなっている。(図1-7)

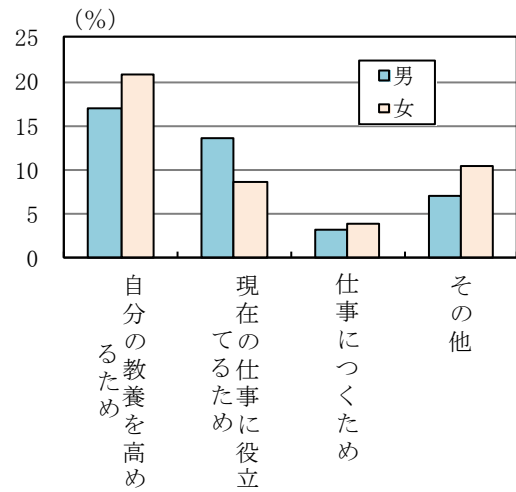
「学習・自己啓発・訓練」の種類別にみると、「パソコンなどの情報処理」、「商業実務・ビジネス関係」及び「介護関係」は「現在の仕事に役立てるため」が最も高く、ほかは全て「自分の教養を高めるため」が最も高くなっている。(図1-8)

図1-6 「学習・自己啓発・訓練」の目的別行動者率(平成18年, 23年)



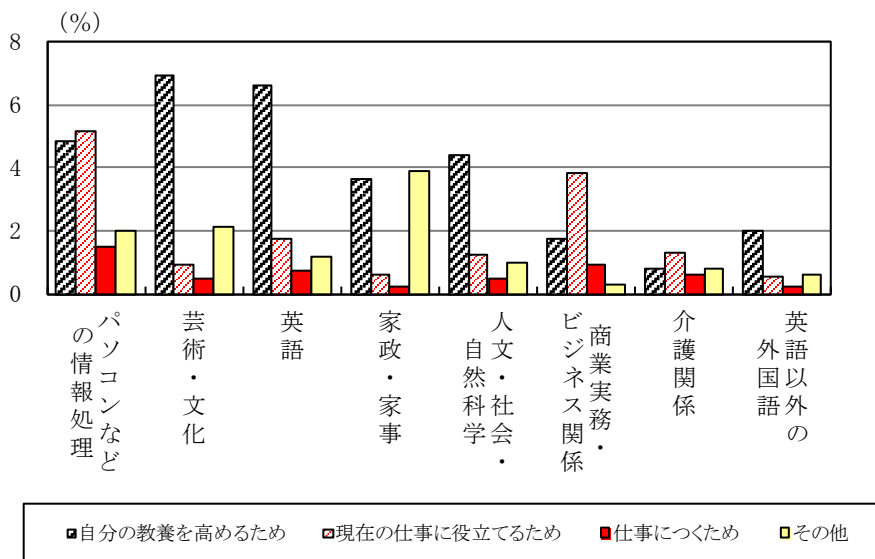
注) 複数回答あり。

図1-7 「学習・自己啓発・訓練」の目的、男女別行動者率



注) 複数回答あり。

図1-8 「学習・自己啓発・訓練」の種類、目的別行動者率



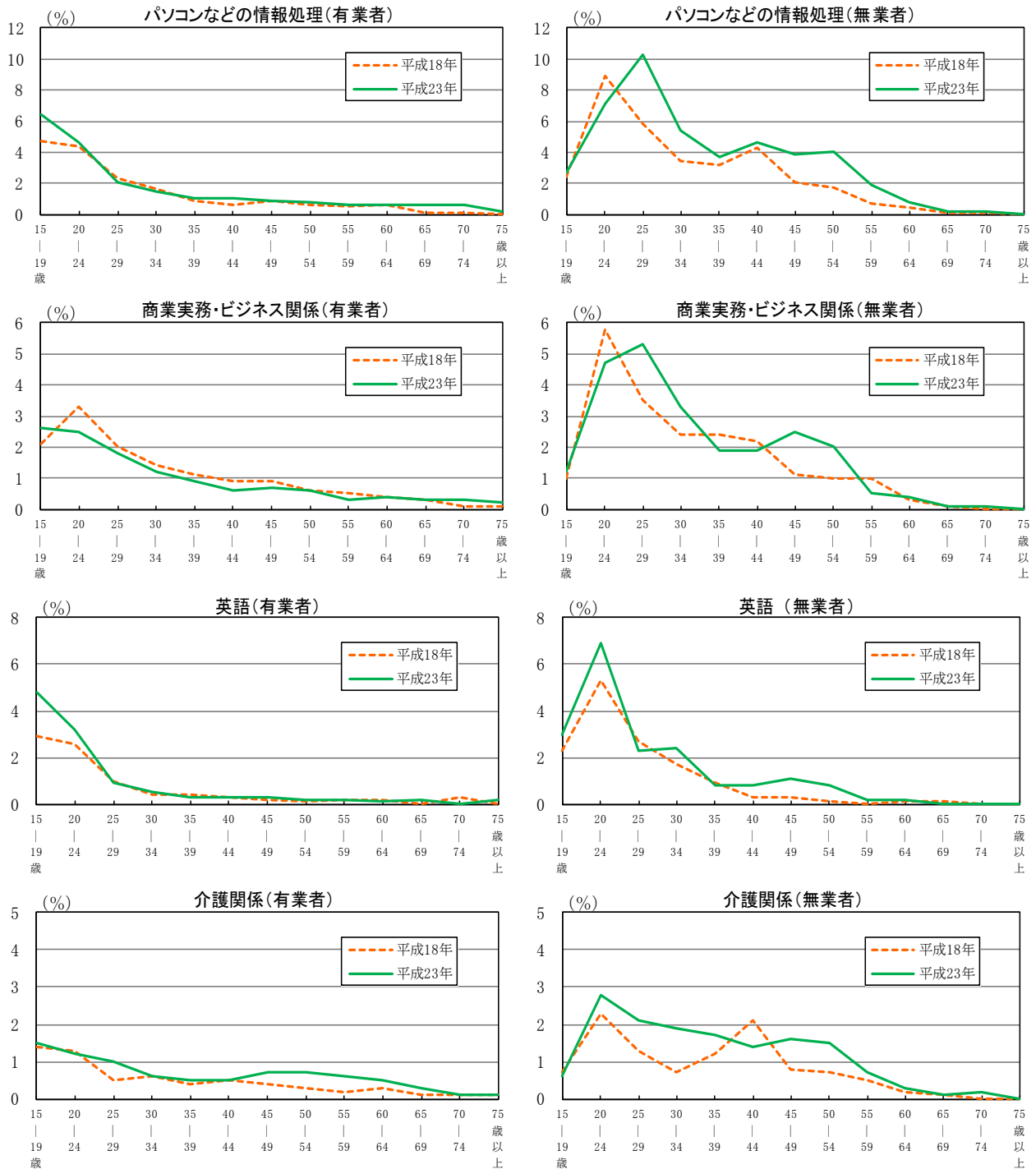
注) 複数回答あり。

(5) 仕事につくために学習等を行った人について、「介護関係」は有業者、無業者共に幅広い年齢階級で行動者率が上昇

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率（15歳以上）を主な種類、就業状態、年齢階級別に平成18年と比べると、仕事につくために「介護関係」の学習等を行った人は、有業者、無業者共に幅広い年齢階級で上昇している。

また、仕事につくために「パソコンなどの情報処理」の学習等を行った人は、無業者の25～74歳で上昇している。（図1-9）

図1-9 「学習・自己啓発・訓練」の主な種類、就業状態、年齢階級別行動者率（仕事につくために学習等を行った人、15歳以上）（平成18年、23年）



2 ボランティア活動

- (1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は2995万1千人、行動者率は26.3%で5年前より0.1ポイント上昇

「ボランティア活動」の行動者数は2995万1千人で、行動者率は26.3%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が1361万1千人、女性が1634万1千人となっており、行動者率は男性が24.5%、女性が27.9%で、女性が男性より3.4ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年と比べると、0.1ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が0.6ポイント低下、女性が0.7ポイント上昇している。

年齢階級別にみると、40～44歳が35.6%と最も高く、25～29歳が16.5%と最も低くなっている。平成18年と比べると、20歳代から40歳代前半を中心に上昇している。(図2-1)

男女別にみると、65歳未満では女性の方が高く、65歳以上では男性の方が高くなっている。(図2-2)

図2-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

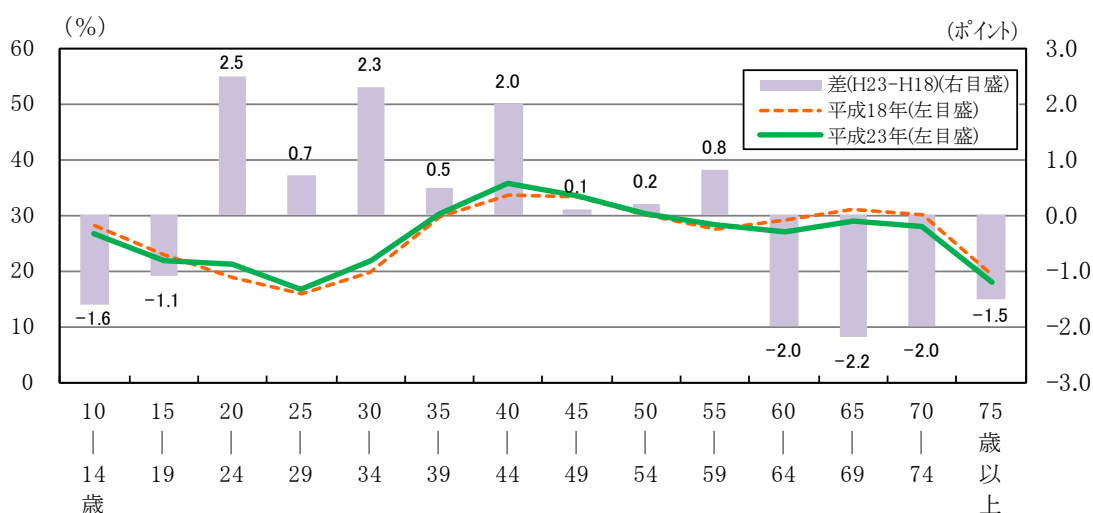
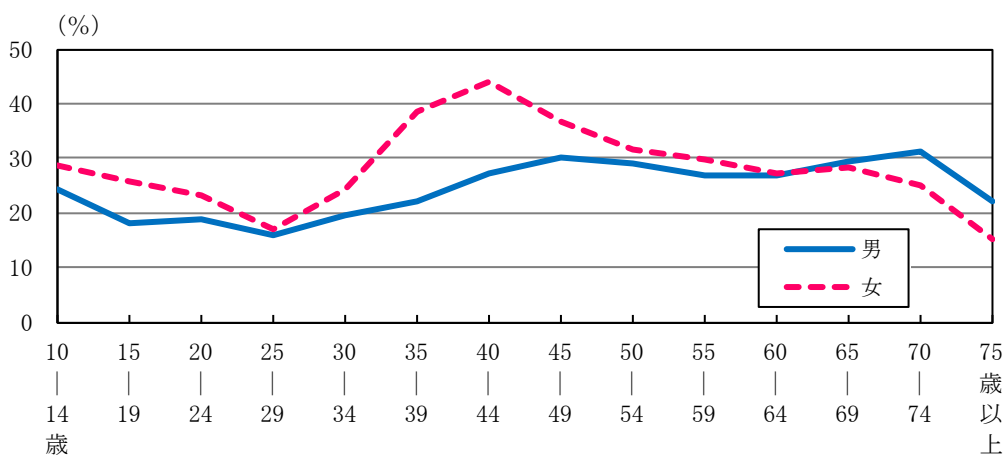


図2-2 「ボランティア活動」の男女、年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は「子供を対象とした活動」、「災害に関係した活動」で上昇

「ボランティア活動」の行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」が10.9%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が8.2%などとなっている。これを平成18年と比べると、「子供を対象とした活動」及び「災害に関係した活動」が2.6ポイント上昇している。(図2-3)

男女別にみると、男性は「まちづくりのための活動」が11.5%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が5.5%などとなっている。女性は「子供を対象とした活動」が10.6%と最も高く、次いで「まちづくりのための活動」が10.4%などとなっている。(図2-4)

図2-3 「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成18年、23年）

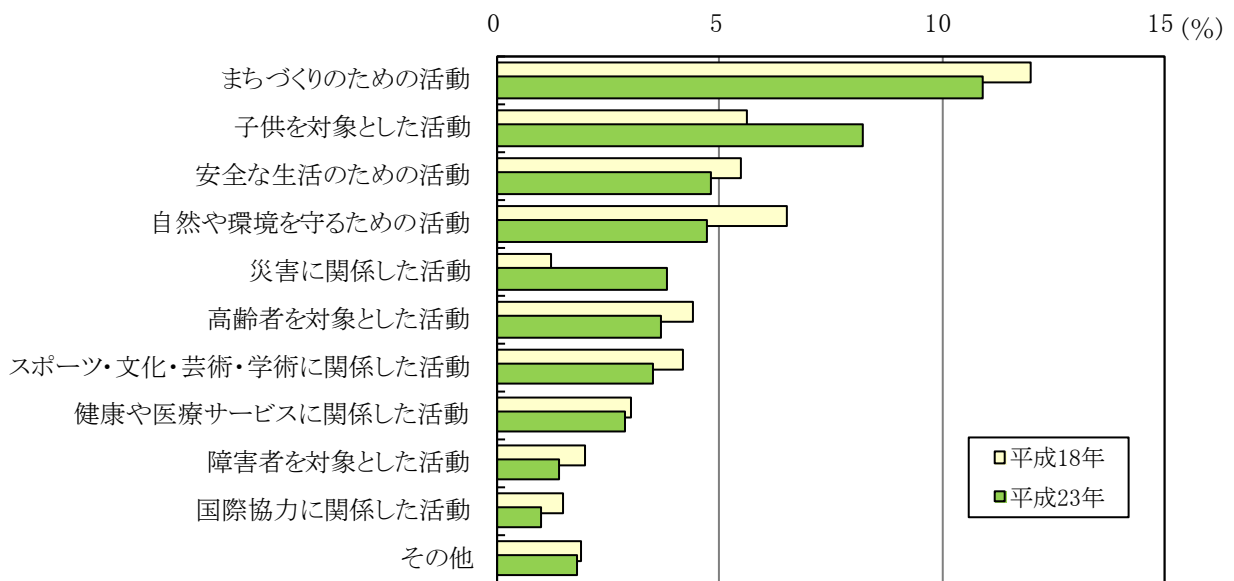
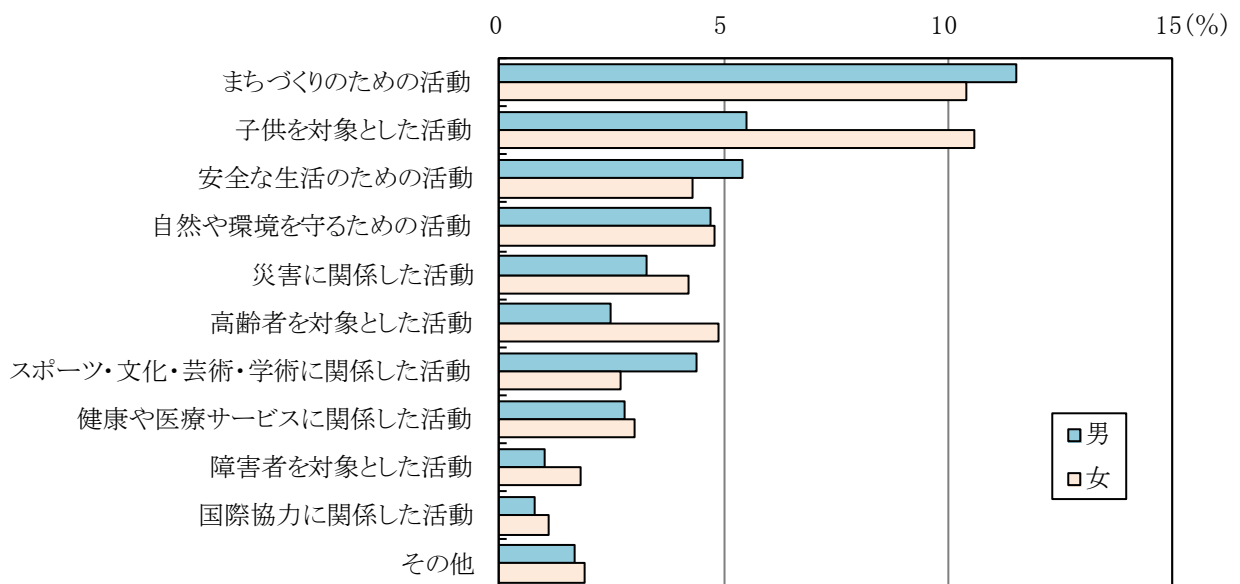


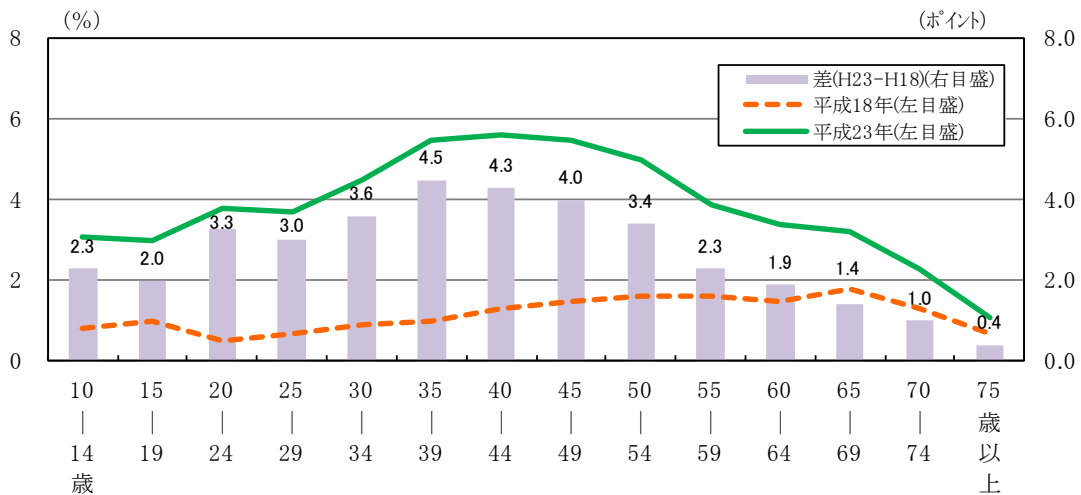
図2-4 「ボランティア活動」の種類、男女別行動者率



(3) 「災害に関係した活動」の行動者率は全ての年齢階級で上昇

「災害に関係した活動」の行動者率を年齢階級別に平成18年と比べると、全ての年齢階級で上昇しており、特に20～54歳で3.0ポイント以上上昇している。(図2-5)

図2-5 「災害に関係した活動」の年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)

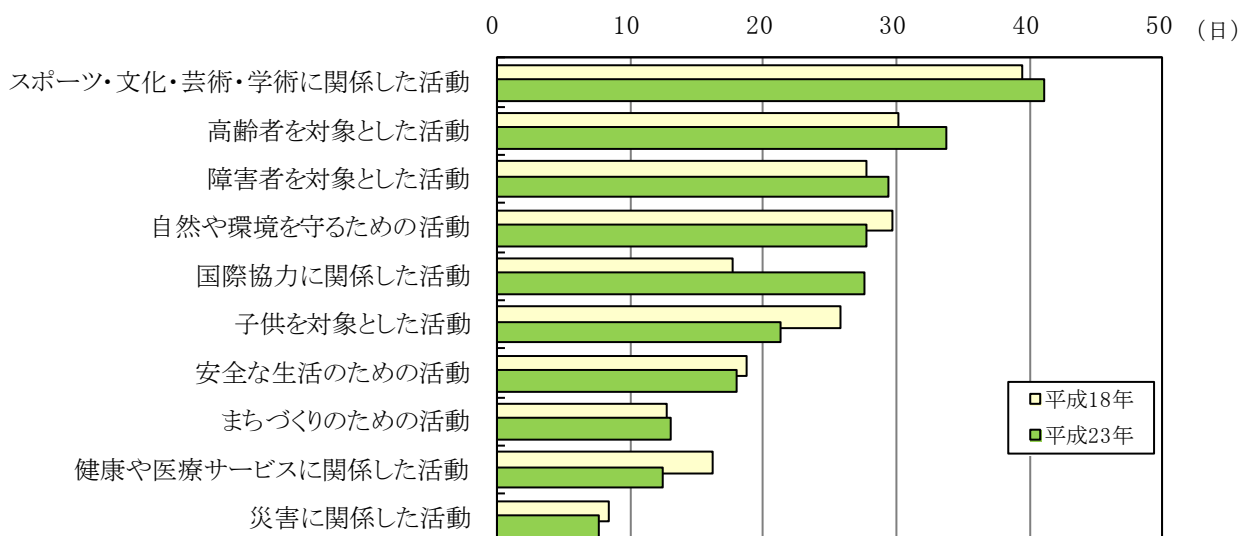


(4) 平均行動日数は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も多い

行動者について平均した過去1年間の行動日数(平均行動日数。以下同じ。)を種類別にみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が41.1日と最も多く、次いで「高齢者を対象とした活動」が33.7日、「障害者を対象とした活動」が29.4日などとなっており、「災害に関係した活動」が7.6日と最も少なくなっている。

平成18年と比べると、「国際協力に関係した活動」が9.9日増加、「高齢者を対象とした活動」が3.5日増加などとなり、「子供を対象とした活動」が4.5日減少、「健康や医療サービスに関係した活動」が3.7日減少などとなっている。(図2-6)

図2-6 「ボランティア活動」の種類別平均行動日数(平成18年, 23年)



(5) 1日当たりの平均時間は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も長い

「ボランティア活動」の1日当たりの平均時間を種類別にみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が178分と最も長く、次いで「障害者を対象とした活動」が165分、「災害に関係した活動」が140分などとなっている。これを男女別にみると、男性は「災害に関係した活動」が184分と最も長く、次いで「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が183分などとなっている。女性は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が169分と最も長く、次いで「障害者を対象とした活動」が165分などとなっている。

1日当たりの平均時間に行動者数及び平均行動日数を掛け合わせた活動時間総量でみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も多く、次いで「子供を対象とした活動」、「高齢者を対象とした活動」などとなっている。これを男女別にみると、男性は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も多く、次いで「子供を対象とした活動」などとなっている。女性は「子供を対象とした活動」が最も多く、次いで「高齢者を対象とした活動」などとなっている。(表)

表 「ボランティア活動」の種類、男女別平均行動日数、1日当たりの平均時間及び活動時間総量

		行動者数 (千人)	平均行動 日数 (日)	1日当たり の平均時間 (分)	活動時間 総量 (万時間)
総 数	スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動	3,991	41.1	178	48,662
	障害者を対象とした活動	1,565	29.4	165	12,653
	災害に関係した活動	4,317	7.6	140	7,655
	子供を対象とした活動	9,297	21.3	139	45,876
	高齢者を対象とした活動	4,215	33.7	135	31,960
	国際協力に関係した活動	1,089	27.6	126	6,312
	まちづくりのための活動	12,488	13.1	99	26,993
	自然や環境を守るための活動	5,407	27.7	87	21,717
	安全な生活のための活動	5,471	18.0	87	14,279
	健康や医療サービスに関係した活動	3,355	12.5	70	4,893
男	スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動	2,427	48.9	183	36,197
	障害者を対象とした活動	533	32.4	166	4,778
	災害に関係した活動	1,840	8.6	184	4,853
	子供を対象とした活動	3,070	22.2	150	17,039
	高齢者を対象とした活動	1,364	33.9	128	9,864
	国際協力に関係した活動	439	31.8	131	3,048
	まちづくりのための活動	6,398	13.9	109	16,156
	自然や環境を守るための活動	2,608	22.1	103	9,894
	安全な生活のための活動	2,973	21.5	101	10,760
	健康や医療サービスに関係した活動	1,581	9.3	58	1,421
女	スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動	1,564	29.0	169	12,775
	障害者を対象とした活動	1,032	28.0	165	7,946
	災害に関係した活動	2,477	6.8	107	3,004
	子供を対象とした活動	6,227	20.8	133	28,711
	高齢者を対象とした活動	2,851	33.6	138	22,033
	国際協力に関係した活動	649	24.9	123	3,313
	まちづくりのための活動	6,090	12.3	88	10,986
	自然や環境を守るための活動	2,798	33.0	72	11,080
	安全な生活のための活動	2,498	13.8	70	4,022
	健康や医療サービスに関係した活動	1,774	15.3	80	3,619

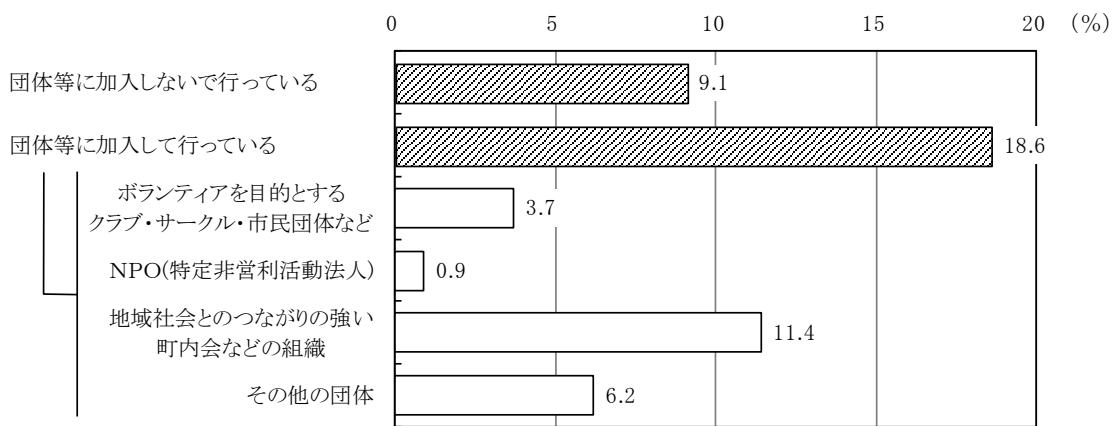
注) 活動時間総量=行動者数×平均行動日数×1日当たりの平均時間

(6) 「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての活動の行動者率が最も高い

「ボランティア活動」の行動者率を形態別にみると、団体等に加入して行っている活動が、加入しないで行っている活動よりも高くなっている。団体等に加入して行っている活動を形態別にみると、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入して行っている活動が最も高く、次いで「その他の団体」に加入して行っている活動などとなっている。(図2-7)

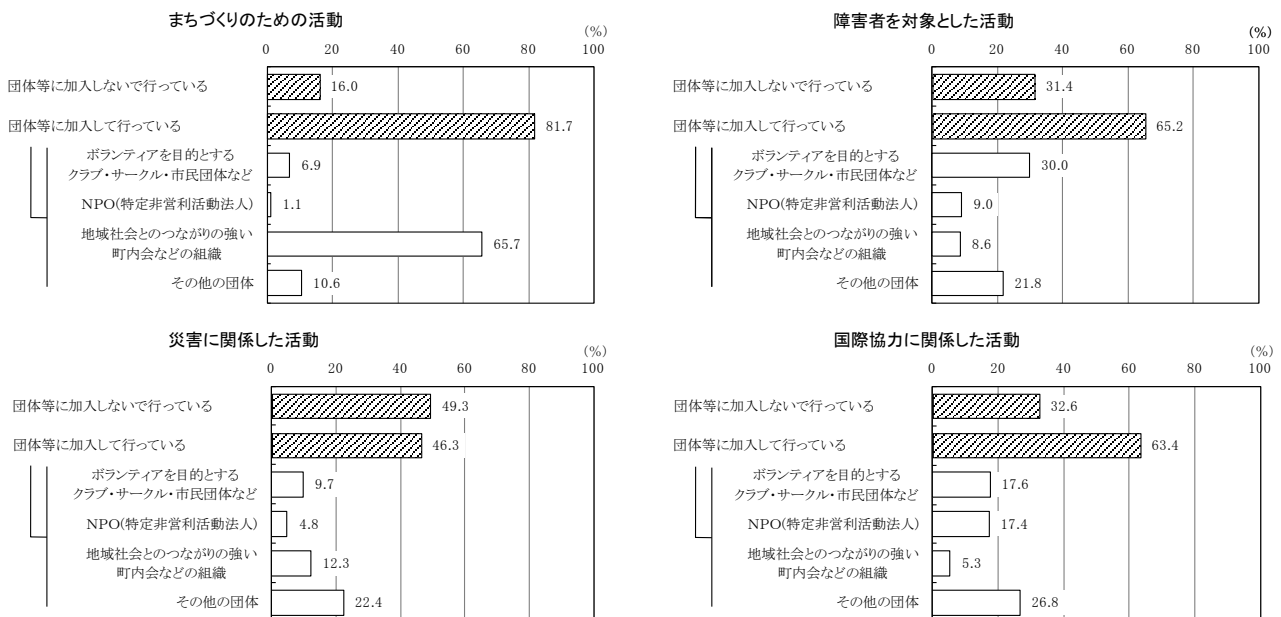
行動者の割合を種類、形態別にみると、「ボランティアを目的とするクラブ・サークル・市民団体など」に加入しての活動は「障害者を対象とした活動」が、「NPO(特定非営利活動法人)」に加入しての活動は「国際協力に関係した活動」が、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての活動は「まちづくりのための活動」が最も高くなっている。また、「災害に関係した活動」については団体等に加入しないで行っている活動の割合が最も高くなっている。(図2-8)

図2-7 「ボランティア活動」の形態別行動者率



注) 複数回答あり。

図2-8 「ボランティア活動」の主な種類、形態別行動者の割合



注) 行動者の割合は、種類ごとの行動者数(活動の形態が不詳のものを含む。)に占める割合。複数回答あり。

(7) 行動者率は大都市及び町村で上昇、小都市A及び小都市Bで低下

「ボランティア活動」の行動者率を都市階級別にみると、町村が31.3%と最も高く、次いで小都市Bが30.3%などとなっている。

平成18年と比べると、大都市及び町村で上昇、小都市A及び小都市Bで低下している。(図2-9)

また、種類別にみると、大都市は「子供を対象とした活動」が最も高く、ほかには「まちづくりのための活動」が最も高い。(図2-10)

図2-9 「ボランティア活動」の都市階級別行動者率（平成18年、23年）

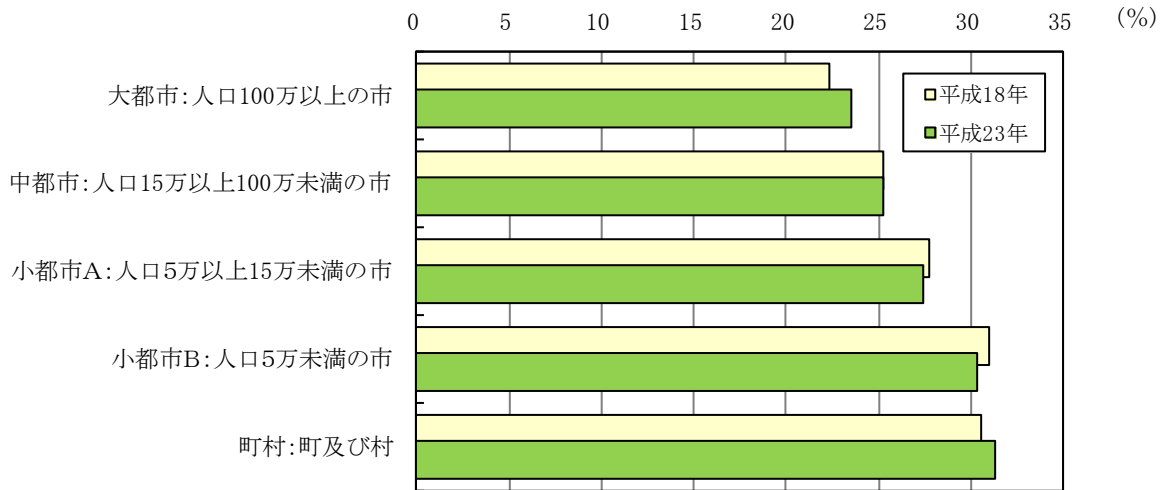
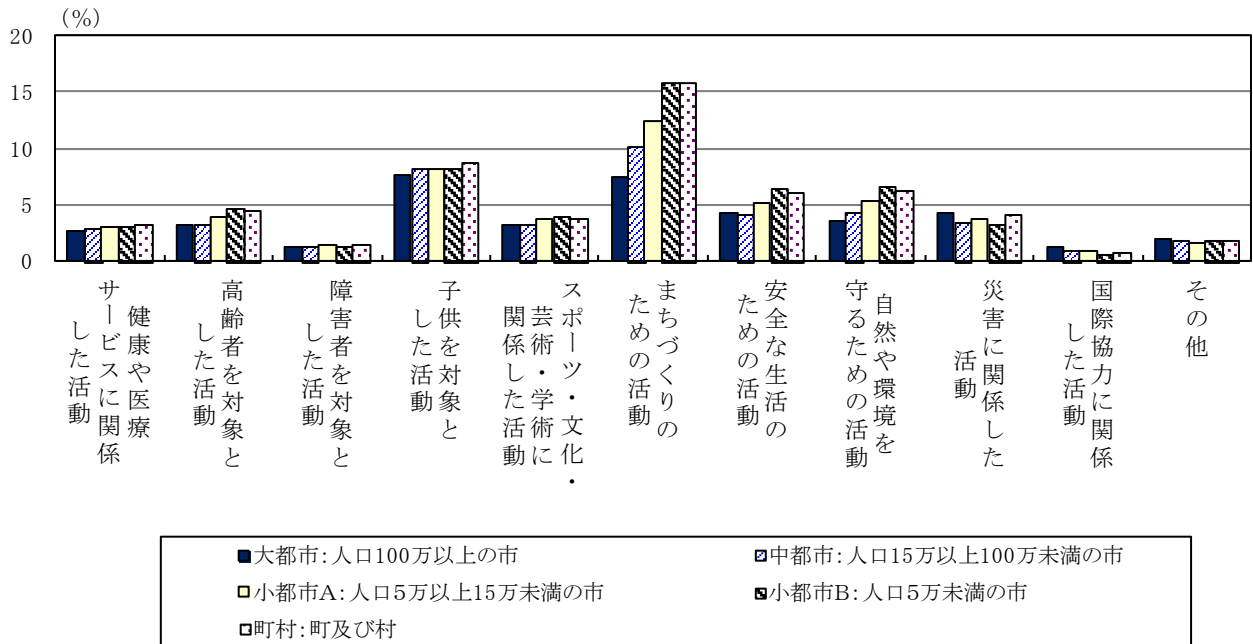


図2-10 「ボランティア活動」の種類、都市階級別行動者率



3 スポーツ

(1) 1年間に「スポーツ」を行った人は7184万3千人、行動者率は63.0%で5年前より2.3ポイント低下

「スポーツ」の行動者数は7184万3千人で、行動者率は63.0%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が3766万1千人、女性が3418万1千人となっており、行動者率は男性が67.9%、女性が58.3%で、男性が女性より9.6ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年と比べると、2.3ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が2.5ポイント低下、女性が2.2ポイント低下している。

年齢階級別にみると、10～14歳が88.7%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。平成18年と比べると、65歳未満は低下、65歳以上は上昇している。(図3-1)

男女別にみると、全ての年齢階級で男性の方が高くなっており、10歳代、70歳以上で特に差が大きくなっている。(図3-2)

図3-1 「スポーツ」の年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)

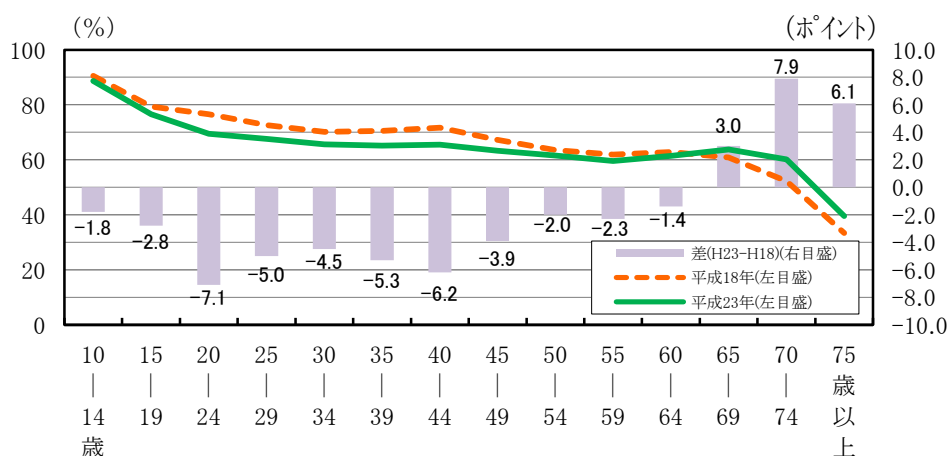
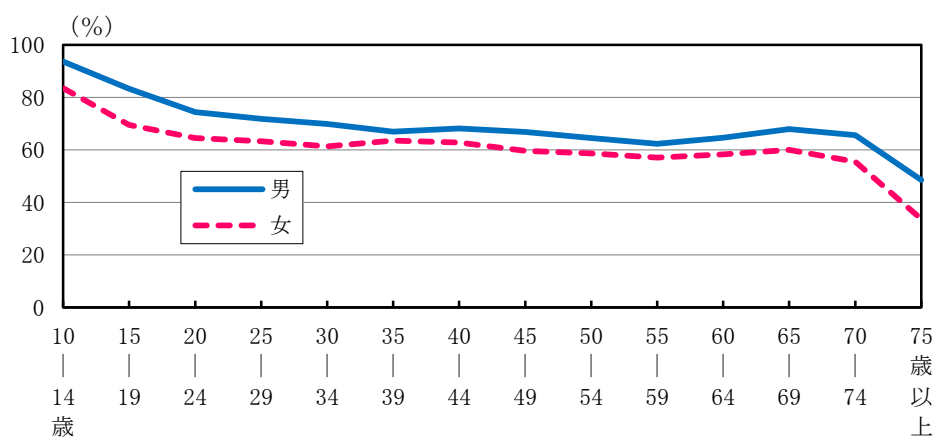


図3-2 「スポーツ」の男女, 年齢階級別行動者率



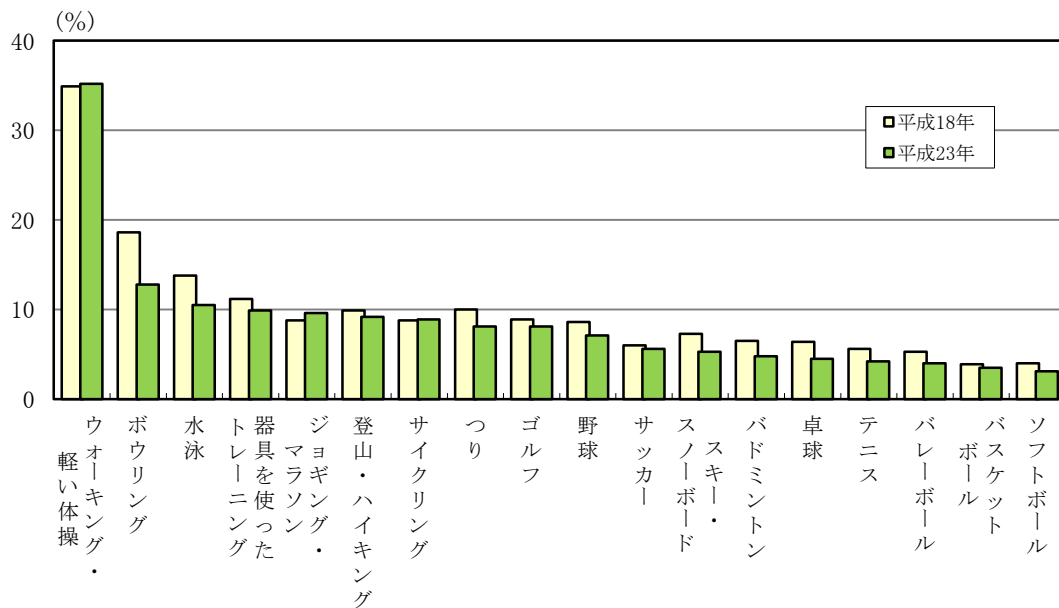
注) 「スポーツ」は、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 行動者率は全体的に低下傾向、「ジョギング・マラソン」などは僅かに上昇

「スポーツ」の行動者率を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が35.2%と最も高く、次いで「ボウリング」が12.8%などとなっている。これを平成18年と比べると、「ボウリング」が5.8ポイント低下、「水泳」が3.3ポイント低下、「スキー・スノーボード」が2.0ポイント低下などとなっており、ほとんどの種類で低下している。一方、「ジョギング・マラソン」、「ウォーキング・軽い体操」、「サイクリング」は、それぞれ0.8ポイント、0.3ポイント、0.1ポイントと僅かに上昇している。(図3-3)

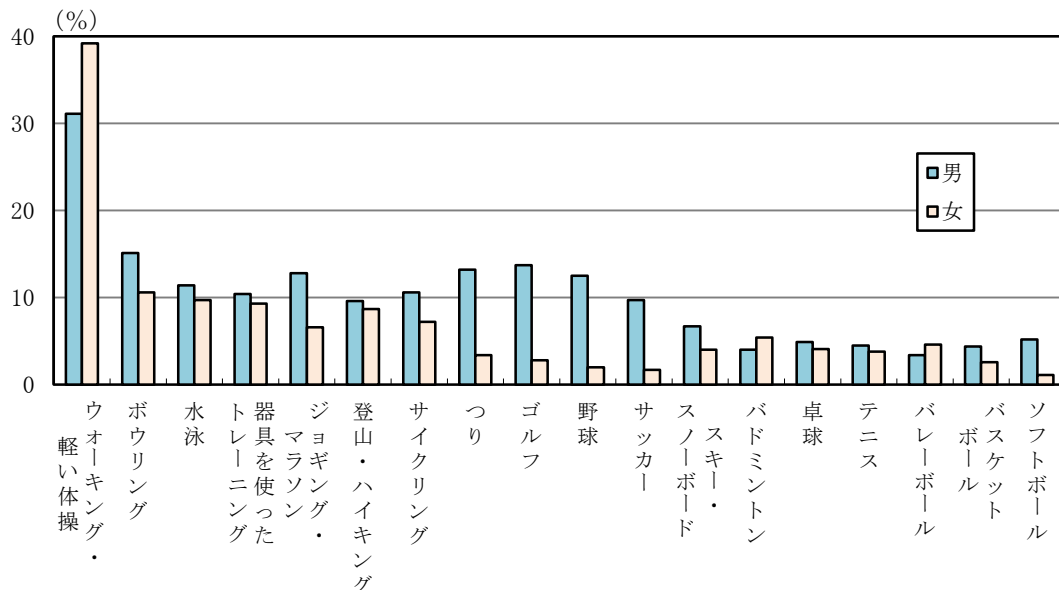
男女別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「ボウリング」となっており、以下、男性は「ゴルフ」、女性は「水泳」などとなっている。(図3-4)

図3-3 「スポーツ」の種類別行動者率(平成18年, 23年)



注) 行動者率が3%以上の種類を表章。

図3-4 「スポーツ」の種類, 男女別行動者率

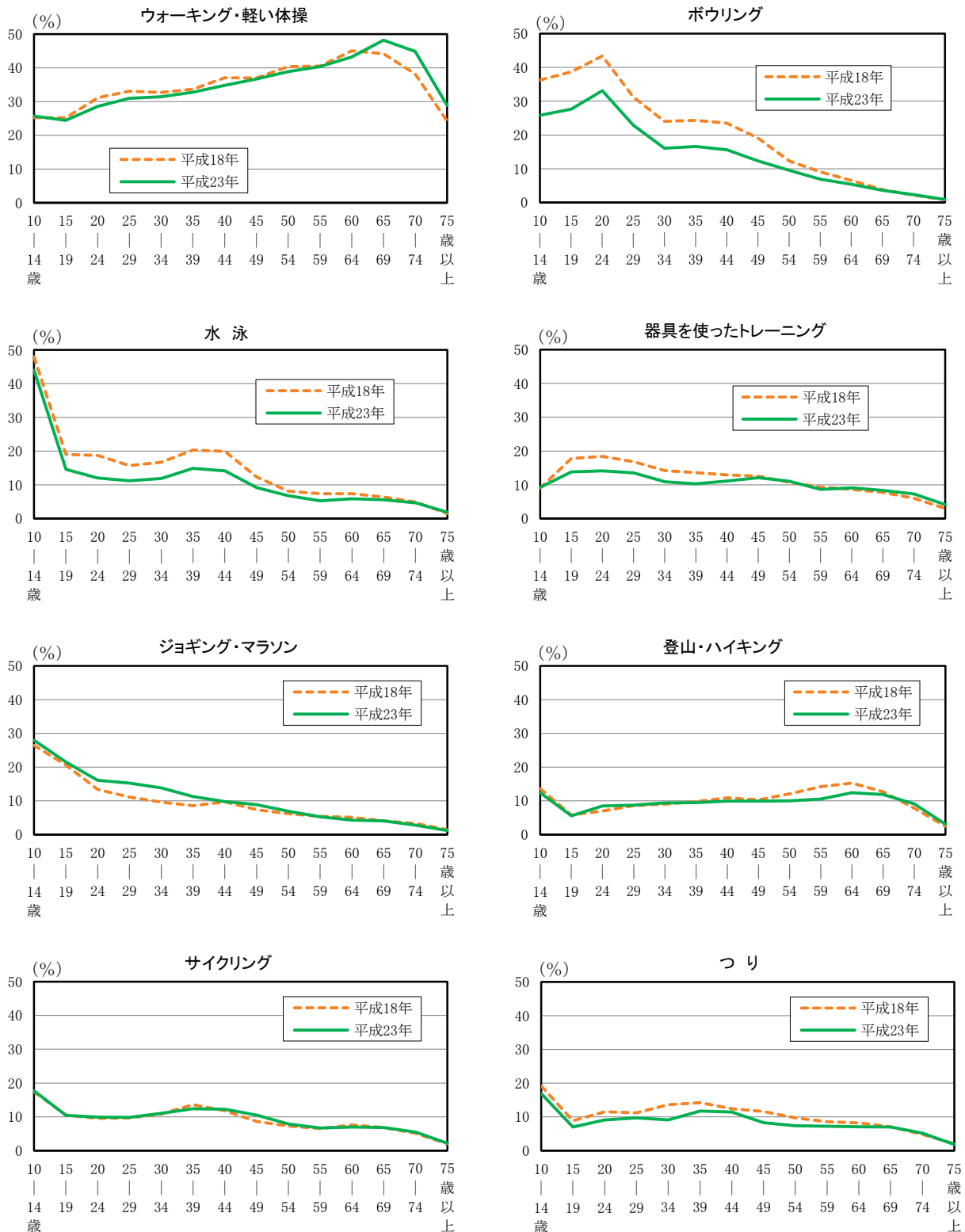


注) 行動者率が3%以上の種類を表章。

(3) 「ウォーキング・軽い体操」は65歳以上の行動者率が特に上昇

「スポーツ」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」は65歳以上、「ジョギング・マラソン」は25～34歳で特に上昇している。また、「ボウリング」及び「水泳」は50歳未満、「器具を使ったトレーニング」は15～39歳で特に低下している。(図3-5)

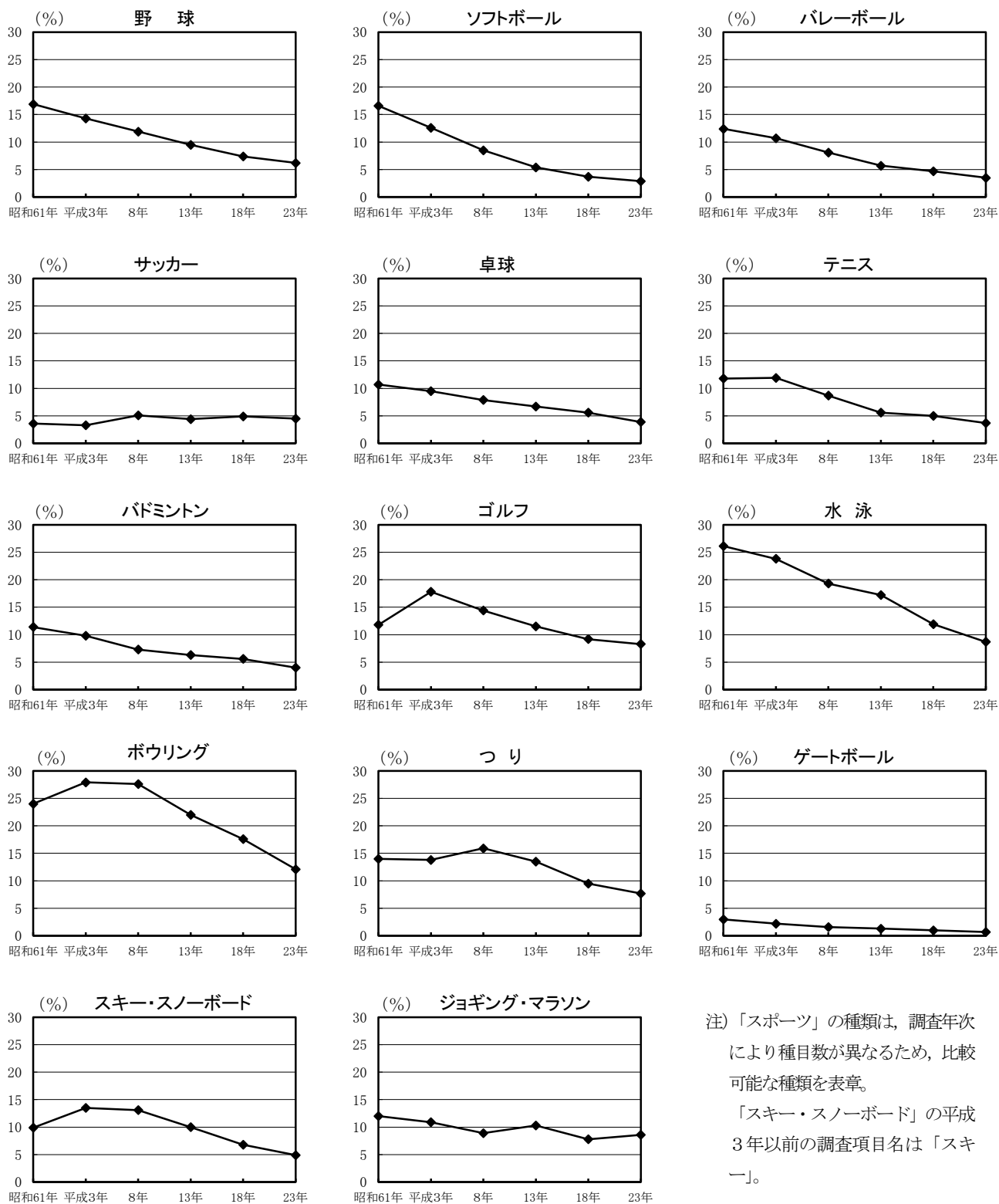
図3-5 「スポーツ」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)



(4) 過去 25 年間の推移をみると、全体的に低下傾向

過去 25 年間で比較可能な「スポーツ」の行動者率（15 歳以上）の推移を種類別にみると、全体的に低下傾向にある。（図 3-6）

図 3-6 「スポーツ」の種類別行動者率の推移（15 歳以上）



注) 「スポーツ」の種類は、調査年次により種目数が異なるため、比較可能な種類を表章。
「スキー・スノーボード」の平成3年以前の調査項目名は「スキー」。

4 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は9677万人、行動者率は84.8%で5年前より0.1ポイント低下

「趣味・娯楽」の行動者数は9677万人で、行動者率は84.8%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が4702万1千人、女性が4974万9千人となっており、行動者率は男性が84.8%、女性が84.9%で、女性が男性より0.1ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年と比べると、0.1ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が0.4ポイント低下、女性が0.3ポイント上昇している。

年齢階級別にみると、10～14歳が94.5%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。平成18年と比べると、65歳以上が特に上昇している。(図4-1)

男女別にみると、70歳未満では女性の方が高く、70歳以上では男性の方が高くなっている。(図4-2)

図4-1 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率(平成18年, 23年)

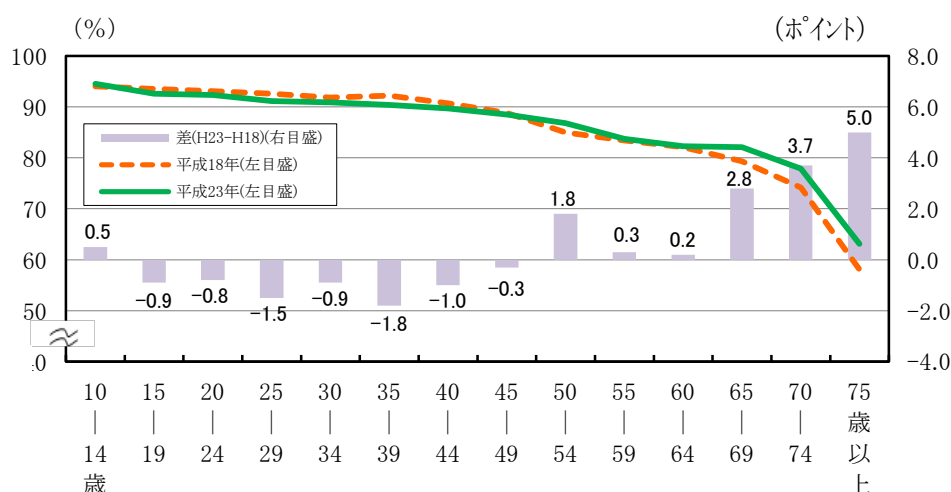
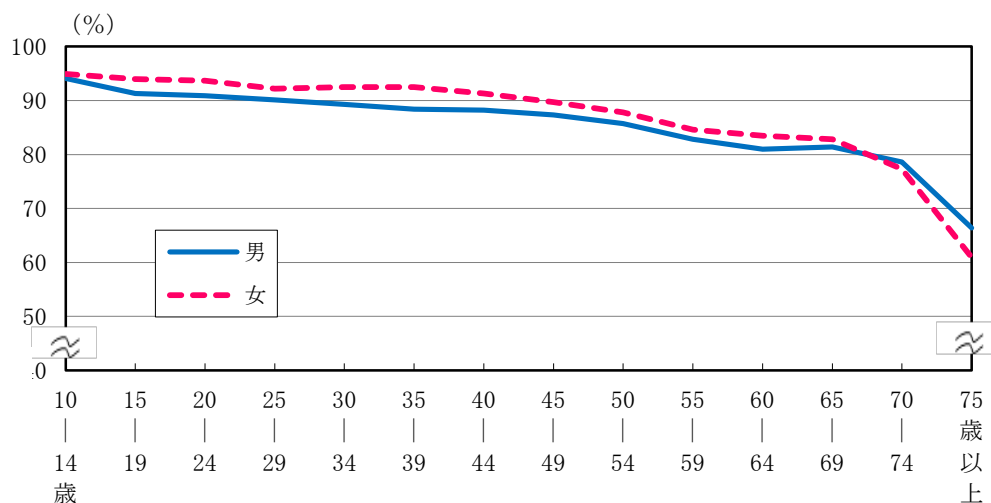


図4-2 「趣味・娯楽」の男女、年齢階級別行動者率

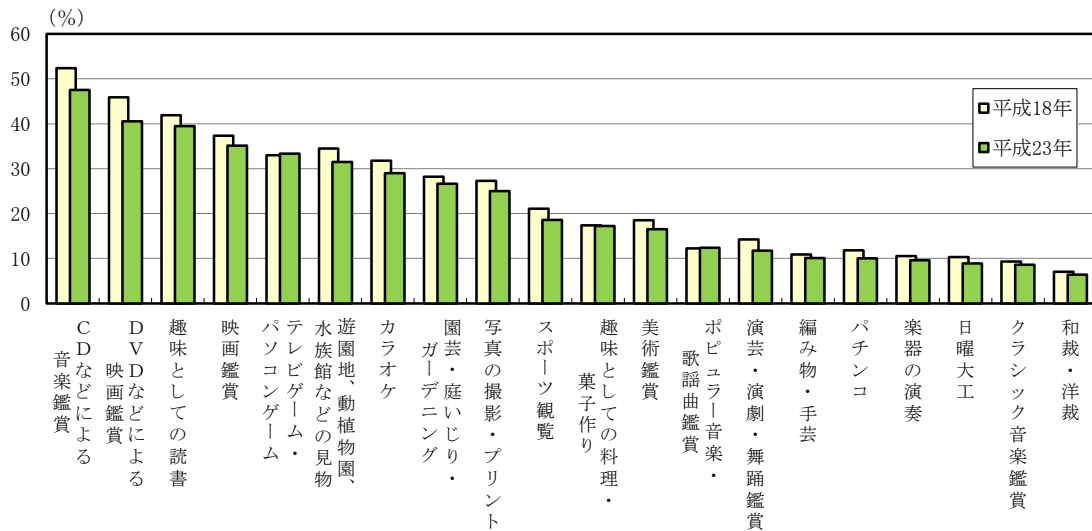


(2) 行動者率は全体的に低下傾向, 「テレビゲーム・パソコンゲーム」, 「ポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」は僅かに上昇

「趣味・娯楽」の行動者率を種類別にみると, 「CDなどによる音楽鑑賞」が47.5%と最も高く, 次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が40.5%, 「趣味としての読書」が39.5%などとなっている。これを平成18年と比べると, 「DVDなどによる映画鑑賞」が5.4ポイント低下, 「CDなどによる音楽鑑賞」が4.9ポイント低下などとなっており, ほとんどの種類で低下している。一方, 「テレビゲーム・パソコンゲーム」, 「ポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」は, それぞれ0.3ポイント, 0.2ポイントと僅かに上昇している。(図4-3)

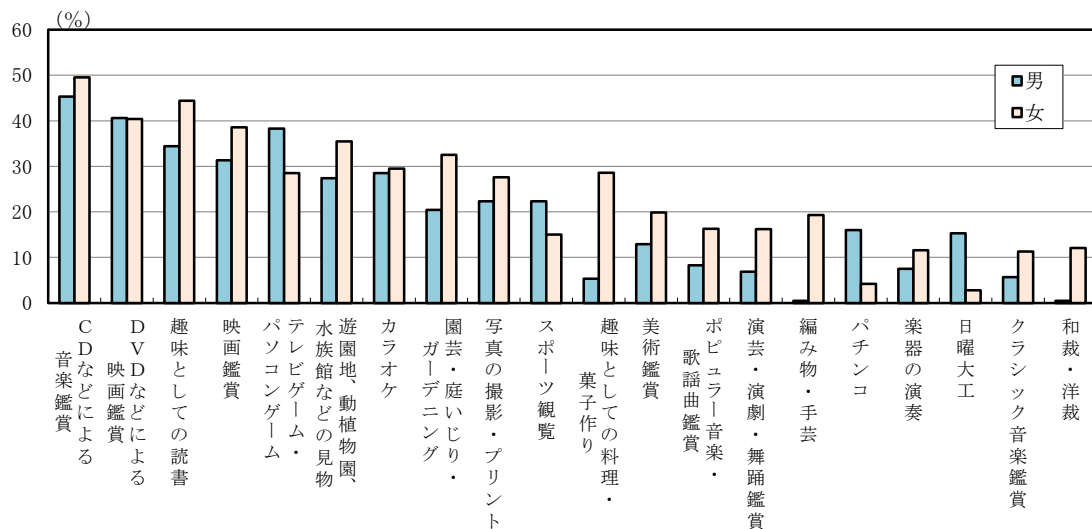
男女別にみると, 男性は「CDなどによる音楽鑑賞」が45.3%と最も高く, 次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が40.6%, 「テレビゲーム・パソコンゲーム」が38.3%などとなっている。女性は「CDなどによる音楽鑑賞」が49.5%と最も高く, 次いで「趣味としての読書」が44.4%, 「DVDなどによる映画鑑賞」が40.4%などとなっている。(図4-4)

図4-3 「趣味・娯楽」の種類別行動者率(平成18年, 23年)



注) 行動者率が上位20の「趣味・娯楽」の種類を表章。

図4-4 「趣味・娯楽」の種類, 男女別行動者率



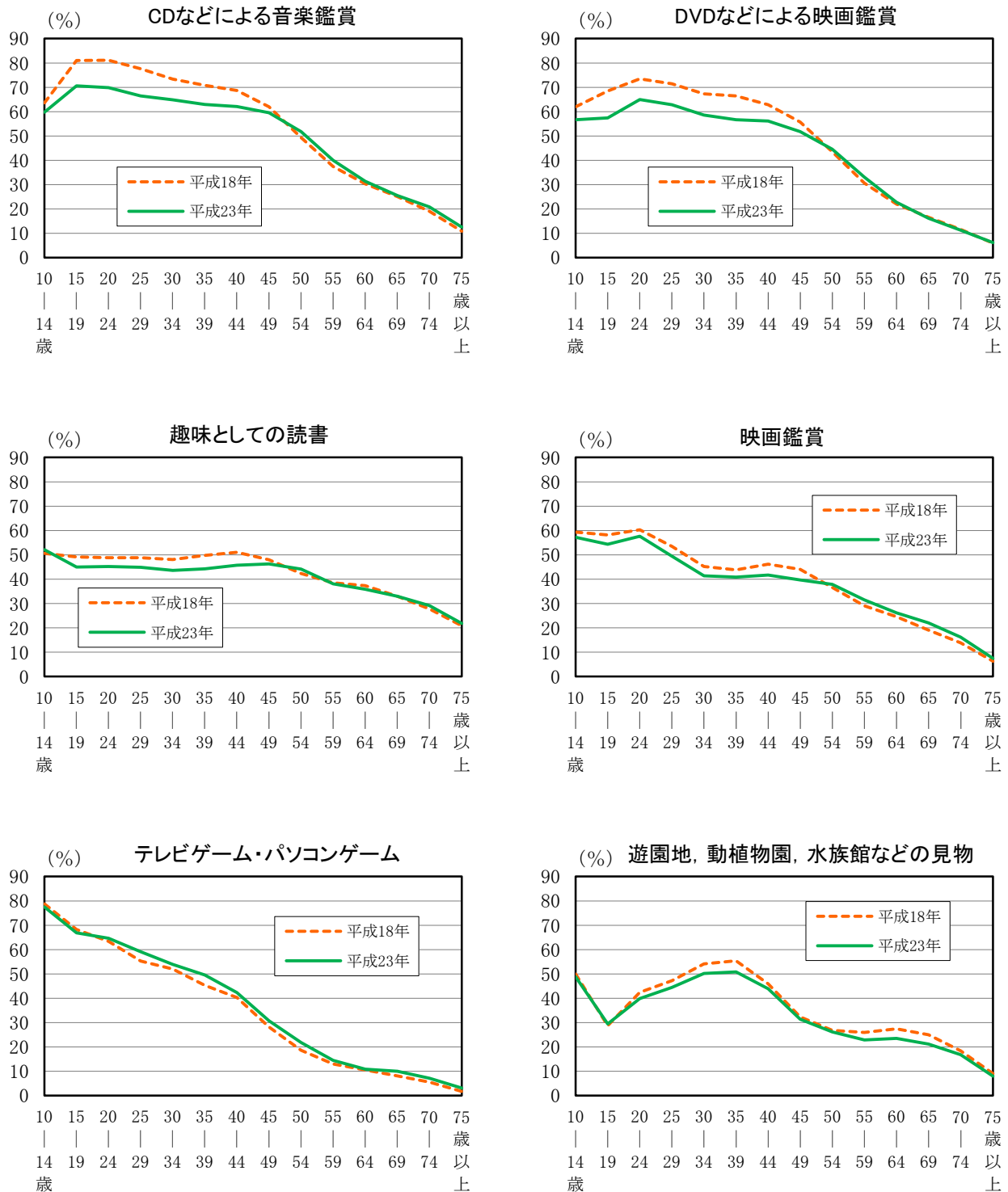
注) 行動者率が上位20の「趣味・娯楽」の種類を表章。

(3) 「映画鑑賞」は50歳以上、「テレビゲーム・パソコンゲーム」は20歳以上で行動者率が上昇

「趣味・娯楽」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「映画鑑賞」は50歳以上、「テレビゲーム・パソコンゲーム」は20歳以上で上昇している。

また、「CDなどによる音楽鑑賞」、「DVDなどによる映画鑑賞」は、50歳未満で特に低下している。
(図4-5)

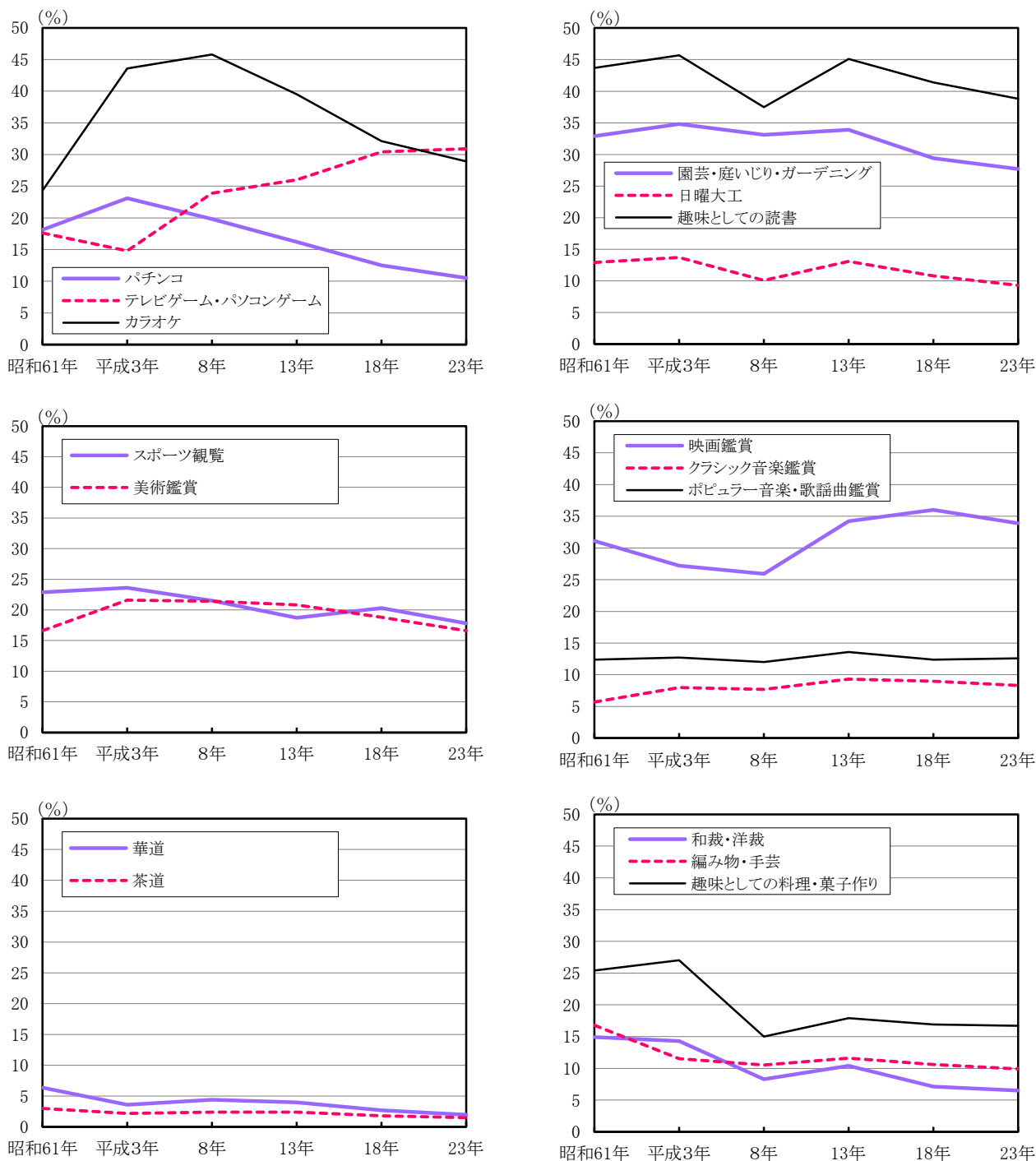
図4-5 「趣味・娯楽」の主な種類、年齢階級別行動者率（平成18年、23年）



(4) 過去 25 年間の推移をみると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」は大きく上昇、「カラオケ」、「パチンコ」は低下傾向

過去 25 年間で比較可能な「趣味・娯楽」の行動者率（15 歳以上）の推移を種類別にみると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」は大きく上昇している。一方、「カラオケ」は平成 8 年をピークに低下、「パチンコ」は平成 3 年をピークに低下している。（図 4-6）

図 4-6 「趣味・娯楽」の種類別行動者率の推移（15 歳以上）



注) 「趣味・娯楽」の種類は、調査年次により種目数が異なるため、比較可能な種類を表章。
「趣味としての料理・菓子作り」の平成 3 年以前の調査項目名は「料理・菓子作り」。
「テレビゲーム・パソコンゲーム」の平成 13 年以前の調査項目名は「テレビゲーム」。

5 旅行・行楽

- (1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は8353万6千人，行動者率は73.2%で5年前より3.0ポイント低下

「旅行・行楽」の行動者数は8353万6千人で，行動者率は73.2%となっている。男女別にみると，行動者数は男性が3944万3千人，女性が4409万3千人となっており，行動者率は男性が71.1%，女性が75.3%で，女性が男性より4.2ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年と比べると，3.0ポイント低下している。これを男女別にみると，男性が3.6ポイント低下，女性が2.4ポイント低下している。

年齢階級別にみると，10～14歳が83.7%と最も高く，15～19歳で70.9%と大きく低下するが，20～24歳から年齢が高くなるにつれて上昇して35～39歳で82.0%となり，40歳以上は年齢が高くなるにつれて低下している。（図5-1）

男女別にみると，70歳以上を除く全ての年齢階級で女性の方が高くなっている。（図5-2）

図5-1 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率（平成18年，23年）

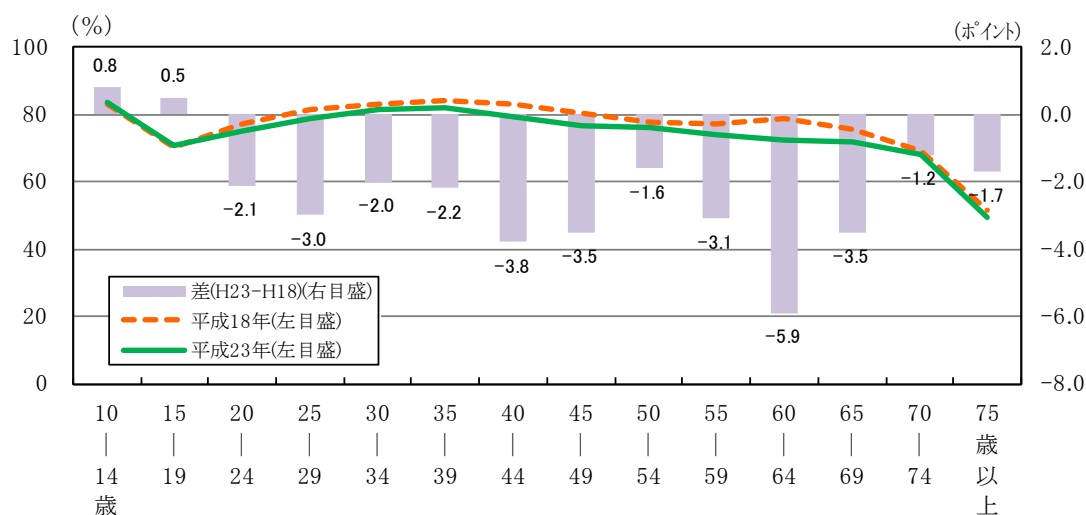
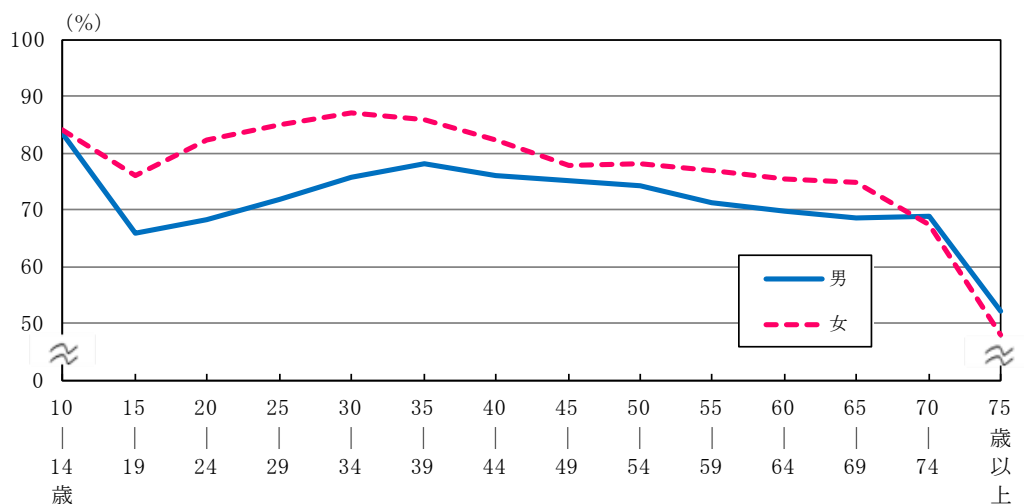


図5-2 「旅行・行楽」の男女，年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は「観光旅行（国内）」が45.4%、「観光旅行（海外）」は7.3%

「旅行・行楽」の行動者率を種類別にみると、「行楽（日帰り）」が58.3%、観光旅行では国内が45.4%、海外が7.3%となっている。これを平成18年と比べると、「観光旅行（国内）」が4.2ポイント低下、「行楽（日帰り）」が1.7ポイント低下などとなっており、全ての種類で低下している。（図5-3）

男女別にみると、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、全ての種類で女性の方が高くなっている。（図5-4）

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成18年、23年）

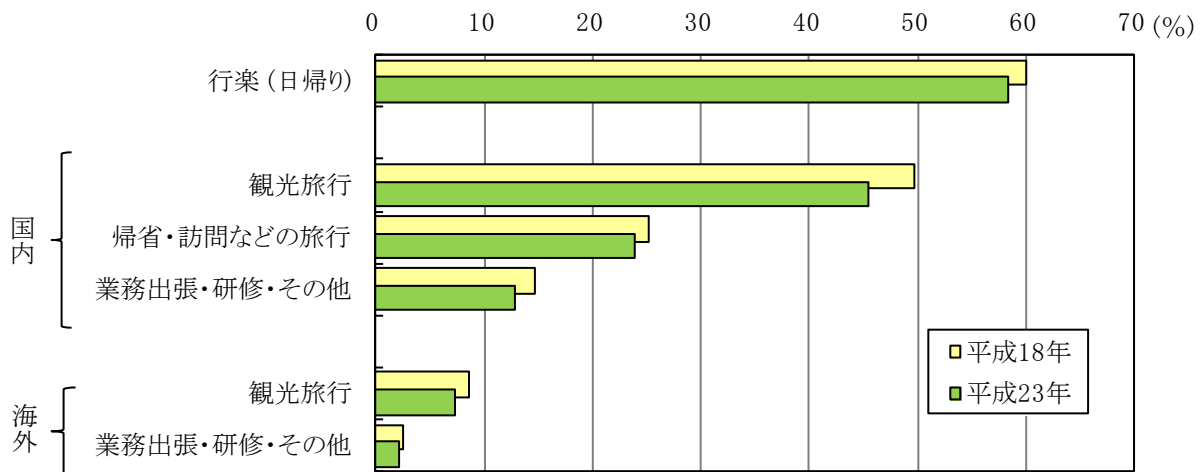
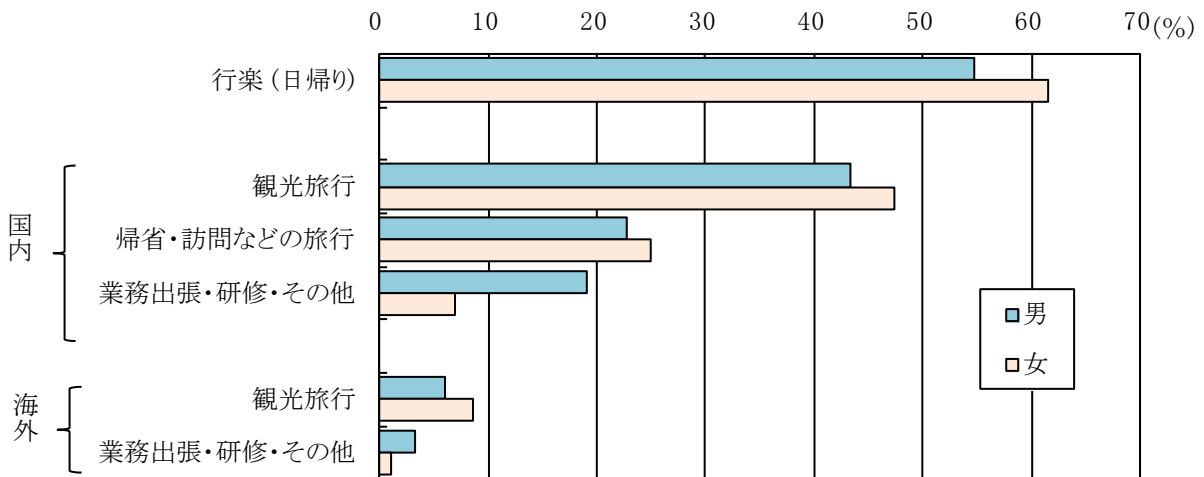


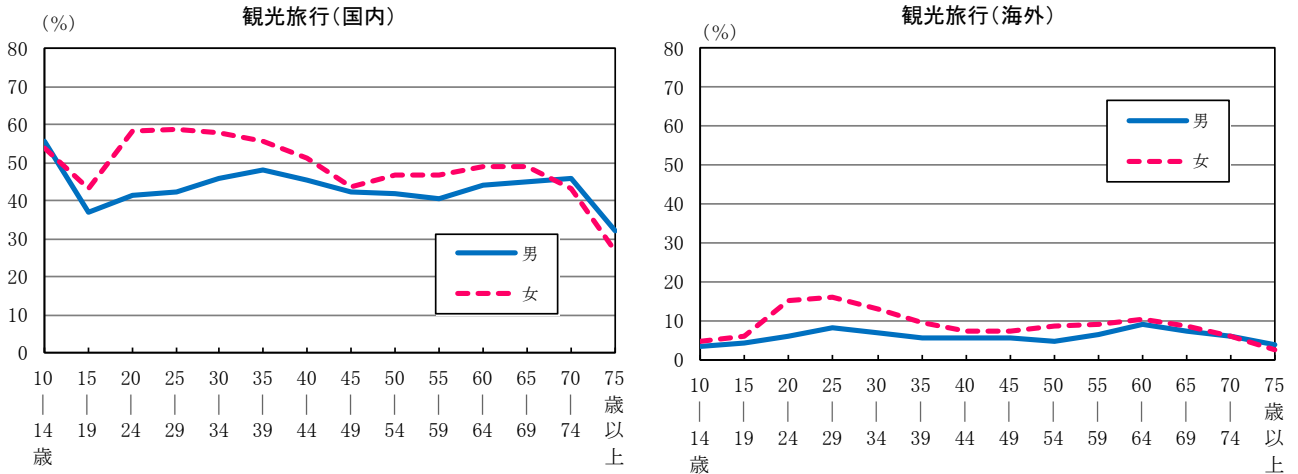
図5-4 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率



(3) 「観光旅行（海外）」の行動者率は、男性は60～64歳で最も高く、女性は25～29歳で最も高い

「観光旅行（国内）」の行動者率を男女、年齢階級別にみると、男性は10～14歳で最も高く、女性は25～29歳で最も高くなっている。「観光旅行（海外）」は、男性は60～64歳で最も高く、女性は25～29歳で最も高くなっている。（図5-5）

図5-5 「観光旅行」の男女、年齢階級別行動者率

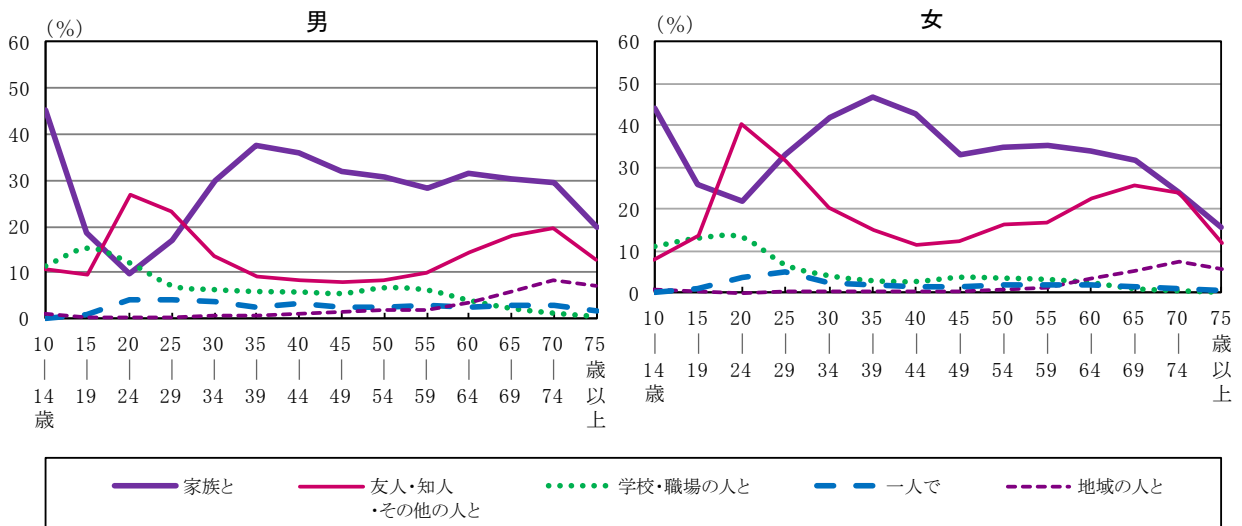


(4) 「観光旅行（国内）」は、20歳代では「友人・知人・その他の人と」の行動者率が高い

「旅行・行楽」の行動者率を「共にした人」別にみると、「家族と」が55.6%と最も高く、次いで「友人・知人・その他の人と」が30.5%、「学校・職場の人と」が16.2%、「一人で」が14.5%、「地域の人と」が5.5%となっている。

「観光旅行（国内）」の行動者率を男女、年齢階級別にみると、20～24歳の男女及び25～29歳の男性で「友人・知人・その他の人と」が最も高くなっている。70～74歳の女性では「友人・知人・その他の人と」及び「家族と」が最も高く、ほかは「家族と」が最も高くなっている。（図5-6）

図5-6 「観光旅行（国内）」の男女、年齢階級、「共にした人」別行動者率



注) 「共にした人」は、複数回答あり。

(5) 過去 25 年間の推移をみると、「観光旅行（国内）」の行動者率は男女共に全ての年齢階級で低下し、「観光旅行（海外）」は 20 歳代の女性で大幅に変化している

「旅行・行楽」の行動者率（15 歳以上）を種類，男女，年齢階級別に昭和 61 年，平成 8 年と比べると，「観光旅行（国内）」は，男女共に全ての年齢階級で昭和 61 年が最も高く，平成 23 年が最も低くなっている。「観光旅行（海外）」は，女性の 20 歳代において特に変化が大きく，平成 8 年は昭和 61 年と比べると，大きく上昇しているが，平成 23 年は平成 8 年と比べると，大きく低下している。（図 5－7）

図 5－7 「旅行・行楽」の種類，男女，年齢階級別行動者率（15 歳以上）
（昭和 61 年，平成 8 年，23 年）

